



後援会スタートのご挨拶

福島大学共生システム理工学類
後援会会長 富田 康男

「福島大学共生システム理工学類」学生のご父兄・保護者の皆様、初めまして！ 4月7日の設立総会において、今年度の後援会会長の大任を仰せつかりました富田康男でございます。微力ではありますが、皆様方のご協力をいただきながら、全力で務めたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、私たちの子どもたちが希望に胸躍らせ、第1期生として入学させていただき、早や2ヶ月となりますが、新たな研究実験棟建設の槌音も力強く響いており、私にとっては、いかにも新しく誕生した「共生システム理工学類」の成長の鼓動にも、また飛躍の足音にも聞こえてくるような気がいたしております。

21世紀を迎えた今日、社会は科学技術の急速な発展、学術技術の高度化・国際化・高度な情報化へと進展する一方、地球環境・温暖化問題、資源・エネルギー問題、少子高齢化問題など、かつて経験したことのない厳しい激動の時代を迎えております。これからは、まさに「福島大学共生システム理工学類」が追求する理学・工学・社会学を融合した、いわゆる人間・環境・産業が共生する新しい科学技術の進歩そのものが求められているわけです。

さらに、福島大学の理工系学部設置については、地元財界・産業界などの長年の念願でありましたが、この度、大学関係者はじめ多くの方々のご尽力によって、その誕生をかなえていただきました。このため、地元の歓迎と期待には並々ならぬものがあり、是非とも「福島大学共生システム理工学類」を発信源とした新しい夢のある学術研究、新技術・新産業開発を目的とした産学官連携やベンチャー企業などの成果など『新しい風』を生み出せる大学に、そして父兄の一人としまして、子どもたちにはこれからの4年間、これらの経験を通し自己実現を図り、激動の世の中に堂々と胸を張って『売れる人材』にと成長して欲しいと、切に願っております。

本後援会は設立したばかりのよちよち歩きの段階ですが、大学とご家庭の連絡を密にして、新学類スタートの大きな期待に対し後押しすべく、積極的に支援活動の継続・発展を図って行きたいと思っております。ご父兄・保護者の皆様には、大いに後援会を活用していただくとともに、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。